

平成 22 年 5 月 14 日

各 位

本社所在地 東京都港区高輪 2-18-10  
会 社 名 レカムホールディングス株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 伊藤 秀博  
(コード番号: 3323 大証ヘラクレス S)  
問 合 せ 先 取締役経営管理本部長  
川畑 大輔  
(TEL: 03-6275-0700)  
(URL: <http://www.recomm.co.jp>)

平成 22 年 9 月期第 2 四半期業績予想と実績との差異  
および特別損失の計上 (個別) に関するお知らせ

平成 21 年 11 月 13 日に公表しました平成 22 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間 (平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日) の業績予想と実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。  
また、併せて特別損失の計上 (個別) について、お知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 9 月期第 2 四半期業績予想数値との差異

(1) 第 2 四半期連結累計期間業績予想数値との差異 (平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	2,700	23	12	20	円 銭 89.55
実績値 (B)	2,607	△99	△115	△109	△488.87
増減額 (B-A)	△93	△122	△127	△129	—
増減率 (%)	△3.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (第 2 四半期累計期間)	4,051	△526	△541	△974	△16,125.67

(2) 第 2 四半期連結累計期間業績予想との差異理由

情報通信機器販売事業につきましては、依然としてリース承認率が低水準で推移する市場環境のなか、平成 21 年 6 月に加盟いたしました「中小企業振興ネットワーク」との協業およびクロスセルや、前年度末に実施したレカム株式会社と株式会社アレックシステムサービスとの合併による組織運営の再編と活性化により前年同期並の実績を確保できましたが、情報通信機器製造事業を行う株式会社アスモが製造する自社ブランド IP ビジネスホン「anoa」の出荷開始が当初計画より大幅に遅延したことにより、その販売により見込んでいた利益を補うことができず、人件費の削減をはじめとする販売管理費の圧縮に努めたものの、営業損失 99 百万円、経常損失 115 百万円、四半期純損失 109 百万円となりました。

なお、通期業績予想につきましては、情報通信機器販売事業において、3 月より導入した全直営支店における統一した「支店運営オペレーション」の効果等により、3 月度、4 月度と期初予想を大きく上回る実績を上げており、かつ、直近の商談状況などから 5 月以降についても期初予想を上回る状況が見込まれること、また、情報通信機器製造事業においては、「anoa」の第 2 四半期累計計画に対する出荷量の遅れを取り戻すべく販路の拡大と販売支援を行っていること、中国での BPO 事業をより拡大させることなどにより当初計画を達成できるものと判断しておりますので、現段階では平成 21 年 11 月 13 日に公表いたしました通期業績予想についての修正はいたしません、修正の必要がある場合は速やかに開示いたします。

(ご参考) 通期業績予想 (平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 9 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想	5,800	180	160	110	円 銭 492.55
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 9 月期)	7,624	△856	△922	△1,326	△16,347.99

## 2. 特別損失の計上 (個別)

当社は、連結子会社である株式会社アスモに対する貸付金 (平成 22 年 3 月末日現在 287 百万円) について、同社の最近の業績動向等を踏まえ、その全額を貸倒引当金として特別損失に計上することといたしました。なお、本件特別損失は、連結決算においては相殺消去されますので連結業績への影響はありません。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関するものは、本資料の発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上